

平成24年10月15日(月)
 文化振興課 芸術文化グループ
 担当: 和泉、今瀧、川原(内線 5353)
 TEL: 087-832-3785
 FAX: 087-806-0238

小豆島・栗島芸術家村事業
 (瀬戸内国際芸術祭2013 参加)

小豆島・栗島アーティスト・イン・レジデンス2013/春期
招へい芸術家が決定!!

小豆島・栗島アーティスト・イン・レジデンスは、若手芸術家の創作活動を支援するとともに、地域の人々との交流を通じて、文化芸術による地域の活性化を目的としたプログラムです。(小豆島は平成21年3月開始、今回が第9回目、栗島は平成22年9月開始、今回が第6回目になります。)

芸術家は滞在中、地域の文化、環境などからアイデアを得て、創作活動を行い、新たな作品を制作していきます。また、芸術家には、創作活動とともに地域との交流プログラムなどを積極的に行ってもらうものです。

この度、2013春期(小豆島:2013年4月から4ヶ月間、栗島:2013年6月から4ヶ月間)の招へい芸術家6名を決定しましたので、お知らせいたします。

現在招へい中の2012秋期の芸術家及び今回発表の2013春期の芸術家によって制作された作品は、「瀬戸内国際芸術祭2013」の参加作品として展示します。

○小豆島アーティスト・イン・レジデンス 2013/春期 招へい芸術家

氏名	性別	年齢	現住所	ジャンル	招へい期間(予定)
うすい ひでゆき 臼井 英之	男	33	埼玉県	■インスタレーション	4月~7月
こやま まさよし 小山 真徳	男	31	東京都	■インスタレーション ■絵画 ■ビデオ/フィルム	4月~7月
ゆのき けいすけ 柚木 恵介	男	34	東京都	■インスタレーション ■彫刻 ■デザイン	4月~7月

※招へい芸術家の年齢は、2013年4月現在の年齢です。(以下同様)

○栗島アーティスト・イン・レジデンス 2013/春期 招へい芸術家

氏名	性別	年齢	現住所	ジャンル	招へい期間(予定)
くぼた さや 久保田 沙耶	女	25	茨城県	■インスタレーション ■絵画 ■彫刻 ■写真	6月~9月
なかしま たけし 中島 健	男	29	東京都	■インスタレーション ■ビデオ/フィルム	6月~9月
はまの たかこ 濱野 貴子	女	37	オランダ	■インスタレーション ■ビデオ/フィルム など	6月~9月

- ・主催 小豆島:「小豆島ARTプロジェクト実行委員会(構成:香川県・小豆島2町)」
 栗島:「栗島芸術家村実行委員会(構成:香川県・三豊市)」

(参考)

1. ディレクター

箕浦昇一(東京藝術大学美術学部デザイン科教授)、保科豊巳(東京藝術大学美術学部絵画科教授)、北川フラム(瀬戸内国際芸術祭総合ディレクター)

2. 応募状況(2012秋期、2013春期について同時募集)

- ・応募者 70名(男性41名、女性29名)
- ・地域 21都道府県、海外 4カ国(アメリカ、オランダ、ベルギー、バングラデシュ)

小豆島アーティスト・イン・レジデンス 2013/春期 招へい芸術家

● 臼井 英之(うすい ひでゆき) 男性 1980年生 33歳 埼玉県出身 同在住



作品タイトル:40% 制作年:2007年
素材:スーパーボール2万5千個、ストロボライト等 サイズ:40フィート貨物コンテナ

○ 学歴:

2003 武蔵野美術大学造形学部映像学科卒業

2005 東京藝術大学大学院修士課程デザイン専攻空間造形第一研究室修了

○ 主な活動歴:

2005 群馬青年ビエンナーレ'05 (群馬県立近代美術館・群馬)

2006 Design Tide in Tokyo2006 (原宿・東京)

2007 神戸ビエンナーレ/アートインコンテナ展「40%」(メリケンパーク・兵庫) ※グランプリ
TOKYO FIBER'07 SENSEWARE「WATER LOGO」アトリエオモヤグループワーク (青山スパイラルホール・東京) ※第42回 SDA 賞グランプリ、経済産業大臣賞
TOKYO FIBER '07 SENSEWARE「WATER LOGO」巡回展 (PALAIS DE TOKYO・パリ)

2008 ART ADVANCE ADACHI2008 (北千住マルイ・東京)

2009 ART ADVANCE MITSUKOSHI 2009 (日本橋三越・東京)

2010 OMEGA CONSTELATION ART EXHIBITION (銀座ニコラスGハイエックセンター・東京)

2011 伝統と現代展 (東京藝術大学・陳列館)

2012 夏の芸術祭 2012-次代を担う若手作家作品展 (日本橋三越・東京)

○ レジデンスでの活動予定(作品プラン概要):

小豆島神浦の海辺で、大きな泡ぶくをブクブクさせる。

● 小山 真徳(こやま まさよし) 男性 1981年生 31歳 愛知県出身 東京都在住



作品タイトル:「わたしの荒野」制作年:2011年 素材:ミクストメディア

○ 学歴:

2009 東京藝術大学絵画科油画専攻卒業

2011 東京藝術大学美術研究科油画専攻技法材料修士課程修了

○ 主な活動歴:

2010 アーティストインレジデンス (妙高市赤倉温泉) <G>

2010 俺のモナリザ (大学学生会館ギャラリー) <G>

2011 アートアワードトーキョー丸の内 (行幸地下ギャラリー) <G>

2011 夏の芸術祭 次代を担う若手作家作品展 (日本橋三越) <G>

2011 油絵茶屋再現 GTS 観光アートプロジェクト (浅草寺境内) <G>

2011 ULTRA004 (青山スパイラルガーデン) <G>

2012 小山真徳展 (Gallery Jin Projects)

○レジデンスでの活動予定(作品プラン概要):

スタジオを拠点に島、県内を取材し「おみやげ」のプランをドローイングし、プランに合った素材を調達し制作します。一種類につき二つ以上制作し、一つは展示用としてキープします。

背負子、「おみやげ」を入れる箱を制作し、ある程度「おみやげ」が溜まったら、日程を決めて行商します。行商する場所は島内、県内、よく検討した上で決めます。行商の様子はドキュメント映像としてビデオカメラで記録し作品展示の際に使用します。

展示方法は、資料館のような形態を考えており、プランドローイング、制作した「おみやげ」、行商の映像などを展示しようと考えています。

「おみやげ」を背負い行商することで、美術や芸術といった堅苦しいフィルターを通さずダイレクトに人と作品を結びつけることを目指しています。

ワークショップでは「小豆島のおみやげをつくろう(仮)」という、自分の活動に即した交流プログラムを考えています。

● 柚木 恵介(ゆのき けいすけ) 男性 1978年生 34歳 鹿児島県出身 東京都在住



作品タイトル: 柚木島01 制作年: 2011年 素材: 醤油樽、木材、フロート、その他
サイズ: W5000mm × D5000mm × H2000mm

○ 学歴:

2005 東京藝術大学大学院美術研究科デザイン専攻修了

○ 主な活動歴:

2010、2011 小豆島ARTプロジェクト Story of the Island展
2010～ GTS (藝大×台東×墨田) 観光アートプロジェクト (2010～)
2009 日本橋三越本店ショーウィンドウディスプレイ制作 (2009)
2008～2010 藝術大学交流事業美術ワークショップイン小豆島
2008、2009 上野タウンアートミュージアム
ワークショップ多数 など

○ レジデンスでの活動予定(作品プラン概要):

瀬戸内海には700を超える島が存在している。島で暮らす人々の気質、言葉、植物や食物。その全てが緩やかに穏やかに自分の中に溶け込んでくるような感覚は、この温暖な気候による独特の風土に起因するのかもしれない。

作品は、瀬戸内海にある島々を海に見立てた空間に再配置する。

人々は島々を俯瞰し、航海するように歩き回る。夜が明け、黎明が訪れ、射すような日差しを経て夕刻、残照、そしてまた闇を迎える美しい瀬戸内海の日を感じる仕掛けを考えたい。

海により閉じられた島という起伏、そしてそれを照らし出す光に、私は、人々は何を見いだすのだろうか。

粟島アーティスト・イン・レジデンス 2013/春期 招へい芸術家

● 久保田 沙耶(くぼた さや) 女性 1987年生 25歳 茨城県出身 東京都在住



作品タイトル: daily dig#3(daily dig series) 制作年:2012年
素材: 弥生式土器、マーカサイト、セメント サイズ:330×350×240mm
協賛: SWAROVSKI GEMS, (有)満山自動車 収蔵: フリードリッヒフリックコレクション

○ 学歴:

筑波大学芸術専門学群構成専攻総合造形卒業
東京藝術大学大学院美術研究科絵画専攻油画修士課程卒業
東京藝術大学大学院美術研究科博士後期課程美術専攻油画研究領域在学中

○ 主な活動歴:

(個展)

2008 ” Plants” (東京)
2009 ” veil” (東京)
2010 ” ファンファーレ” /AISHO MIURA ARTS(東京)
2012 ” melting monster” /AISHO MIURA ARTS(東京)

(グループ展)

2008 GEISAI#11/東京ビッグサイト(東京)
2008 自由が丘ストリートエキシビション(東京)
2008 GENIUS FIELD/AISHO MIURA ARTS(東京)
2009 Tokyo Regionalism-Japanese Emerging Artists' Exhibition-(ニューヨーク)
2009 EMERGING DIRECTORS' ART FAIR ” ULTRA” /スパイラル(青山)
2009 showcase/AISHO MIURA ARTS(東京)
2010 QR CODE MUSEUM(東京)
2010 ASIA TOP GALLERY HOTEL ART FAIR 2010/Grand Hyatt HONG KONG(香港)
2010 TOKUSHIMA LED ART FESTIVAL 2010(徳島)
2010 青参道アートフェア 2010(東京)
2011 ASIA TOP GALLERY HOTEL ART FAIR 2011/Mandarin Oriental(香港)
2011 wabi savvy/JAUS GALLERY(ロサンゼルス)
2011 LUMINE MEETS ART/LUMINE 新宿店(東京)
2012 group exhibition/銀座三越(東京)

(収蔵)

フリードリッヒフリックコレクション

○ レジデンスでの活動予定(作品プラン概要):

今回の粟島でのレジデンスでは「daily dig」というシリーズをプロジェクト化して進めたいと考えています。

● 中島 健(なかしま たけし) 男性 1983年生 29歳 兵庫県出身 東京都在住



タイトル:『消えてなくなるいい景色』 制作年:2012年
素材:色鉛筆 紙 デジタルフォトフレーム 木

○ 学歴:

- 2006 尾道大学芸術文化学部美術学科卒業
- 2008 尾道大学大学院修士課程美術研究科修了
- 2012 東京芸術大学大学院修士課程美術研究科修了

○ 主な活動歴:

(個展)

2007 トーキョーワンダーサイト本郷

(グループ展)

2005 尾道帆布展 2005 / (尾道商店街空き店舗)

2006 トーキョーワンダーウォール 2006 / 東京都現代美術館

2007 NEXT DOOR Vol.3 / T&GARTS GALLERY (東京都)

2008 Arts challenge Aichi 2008 / 愛知県立芸術センター

2009 町中アート大学オープニング展 / 小島アートプラザ (東京都)

2010 群馬青年ビエンナーレ 2010 / 群馬県立近代美術館

2011 クリシェを越えて / Maison du Japon パリ

それがすき / 新・港村 (横浜トリエンナーレ関連企画)

2012 きノウ、あったことについて / ai kowada gallery

○ レジデンスでの活動予定(作品プラン概要):

『自然や他者といったコントロール不可能な存在の見え方を、作るという行為をインターフェースに展開していく。』ということを経験的なコンセプトとして、現地の島の環境の中で、フレキシブルな形で制作していきます。

● 濱野 貴子(はまの たかこ) 女性 1975 年生 37 歳 東京都出身 オランダ在住



タイトル:窪津ノ夢ヲミタ。制作年:2008 年
素材:ドローイング アニメーション サウンド 鉛筆 色鉛筆 水彩 インク
チョーク 手拭い 厚紙 モニター5 台 スクリーン(屋外)
写真約 250 枚(カットアウトを含む) 画鋏 テグス その他のオブジェ
サイズ:約 H5 x W3 x D10m

○ 学歴:

立教大学卒業 (社会学専攻)

リートフェルドアカデミー卒業 (ファインアート専攻)

○ 主な活動歴:

オランダの美術学校を卒業後、アムステルダムを拠点に作家活動を展開。ドローイング、アニメーション作品を基盤とする空間作品や出版作品等を個展、共同展にて発表。その他、自主プロジェクト、「アーネマウデンプロジェクト(2003-2005)」及び「窪津プロジェクト(2007-2008)」をポーラ美術振興財団、BKVB 財団、プリンスベルナルド文化財団、モンドリアン財団、朝日新聞文化財団等の助成や他の文化団体のサポート受けながら、オランダと日本にて行なってきた。

○ レジデンスでの活動予定(作品プラン概要):

在学時代に滞在した、漁業を生業とする水俣が抱く人間と自然の共生のかたちに心を打たれた。2003年からオランダの漁村アーネマウデンに、また2007年から高知県土佐清水市の漁村、窪津に滞在しフィールドワークをしつつ作品制作した。これらのプロジェクトでは、自然と共に生きる人々の暮らしの中に存在する「神話的な感覚」や「懐かしい世界」を地域の記憶の中に探しつつ人々と交わり、言葉、唄、イメージや音を集めた。集まったマテリアルをもとにリアリティーと想像の世界が交通するような物語をつくり、これを作品を通して共有することで地域に届けなおしてきた。

本レジデンスでは、瀬戸内海に浮かぶ島の生活文化に深く触れ、人々や自然、歴史との出会いの中から新たな粟島の物語をつくりたい。これまで滞在して来た異なる漁村の生活文化の独自性とそこに共通するアーキタイプのようなものを発見し綴りながら、今日本や先進国社会が急激に失いつつある自然との共生の感覚を描き留め、分かち合い、未来のために残したい。

なお、滞在地域との関わりが作品制作過程の重要な基盤になる。集落や島の生活文化についての聞き取り調査を地域のお年寄りや子供を中心にさせていただき、島の歴史、地形などにも見聞を深めたい。また、有志を募り、作品の語る「物語」の登場人物や風景、音などを一緒につくるためのワークショップをもちたいと考えている。